MBT
NEWS LETTER
第75号
’21/1/25

東大寺別当　狭川普文師をお迎えし、“1270年続く東大寺修二会の歴史から見る新型コロナ感染症”を語る「第1回ＭＢＴコロナ対策Web座談会」を開催

・新型コロナの克服のみならず、コロナ収束後またはwithコロナ時代の私達の生き方を考える時期にきているとの認識から、各界の著名人の方に、御意見をいただく企画を立てました。
・その第1回目として、宗教界から華厳宗管長・第223世東大寺別当の狭川普文（さがわふもん）師をお迎えし、1月22日(金)、東大寺の特別応接室にて座談会を開催しました（写真）。

中央：狭川普文師（華厳宗管長/東大寺別当）
右　：細井裕司（奈良医大理事長・学長/MBTコンソーシアム理事長）
左　：笠原敬（奈良医大・MBT研究所病院教授/感染症センター長）

・座談会は、細井理事長が聞き手として進行を担当し、東大寺の創建や修二会（二月堂のお水取り）にまつわる歴史を狭川普文師が、また、感染症にまつわる医学的解説や感染症対策を笠原センター長が発言する、という内容で進められました。
・この座談会は、奈良医大関係者やMBTコンソーシアム会員のみならず、広く一般の皆様にも視聴していただきたいとの想いから、映像や音声をYou Tubeでリアルタイム配信しました（左写真上）。
・また、この座談会の取材に通信メディア3社が参加、座談会終了後に本企画について質問を受けました（写真中下）。
・座談会の概要は裏面で紹介します。

座談会の模様はオンデマンドで
You Tubeから視聴できます（2月21日まで）
https://youtu.be/33pS8s7CWF4

発行
（一般社団法人）ＭＢＴコンソーシアム、　（公立大学法人）奈良県立医科大学
奈良県橿原市四条町840番地研究推進課内　　担当　塩山
ＴＥＬ：0744-29-8853（直通）、ＦＡＸ：0742-90-1070　、　Email: mbt@mbt.or.jp

Withコロナ新時代を見据えて、各界の著名人と語る

第1回 MBTコロナ対策Web座談会概要

東大寺の主な歴史と当時大流行した感染症

細井裕司（奈良医大理事長）

・東大寺修二会は、長い歴史の中で幾多の苦難を乗り越え、一度の中止もなく1270回目を迎えられる。
・東大寺創建から現代までの大きな出来事と感染症の流行を歴史年表で表してみた。
・東大寺様の知恵と、笠原先生の現代医学の知恵を語り合って頂きたい。

狭川普文師（東大寺別当）

・聖武天皇が発願の盧舎那大仏造立は国の命令でなく、自ら進んで助力する人々で、延べ約260万人(当時の人口は約500万人）が携わった。その人たちにはきちんと賃金が支払われた、と記載した過去帳が残っている。
・奈良時代、聖武天皇は天然痘などに病む庶民に対し医療と栄養補給を全国に指示する医療福祉行政を行っている。光明皇后は病人に薬を施し病を治療する施薬院を設置した。
・平家の南都焼き討ちや三好・松永の戦いで諸堂が焼亡する被害を受けたが、修二会は絶える事はなかった。
・太平洋戦争中、練行衆に赤紙が来て数名が抜けたが、灯火管制の下で松明の火を小さくして実施した。
・本年度は、笠原先生の指導を得て新型コロナ対策をして進める。詳細はホームページを見てほしい。

笠原敬（奈良医大感染症ｾﾝﾀｰ長）

・奈良医大は日本で初めてコロナ患者を治療した病院、第1波での経験が第2、第3波の対応に生きている。
・天然痘は人間のみ感染、ぶつぶつなど皮膚症状が出るが、コロナは無症状もあり、動物にも感染など、手ごわい。
・練行衆は、日常生活からコロナ感染対策を行いPCR検査の陰性を確認して修行に入ることが重要と助言してきた。